

第一朗読：イザヤの預言(イザヤ50・5-9a)；わたしは、打とうとする者には背中をまかせた  
答唱詩編：(詩編116・1+2+3+4、5+6a+7b、8ab+9)；荒地のかわき果てた土のように、神よ、わたしはあなたを慕う。  
第二朗読：使徒ヤコブの手紙(ヤコブ2・14-18)；行いが伴わないなら、信仰は死んだものである  
アレルヤ唱：(ガラテヤ6・14)；わたしには主の十字架のほかに誇るものはない。世はわたしにとって、わたしも世にとって十字架につけられている。  
福音朗読：マルコによる福音(マルコ8・27-35)；「あなたは、メシアです。」人の子は必ず多くの苦しみを受ける

今日の福音は最初の受難告知の場面です。今日の福音ではペトロの信仰宣言のあとに告知されます。そこでイエスは弟子たちに「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と問われます。今までいろいろなことを示してきたイエスを、人々は何者だと思っているのかを弟子たちに聞いたのです。病人をいやしたり多くの人にパンを増やして与えたりしていましたから、人々の評判はよかったのだと思います。『洗礼者ヨハネだ』とか『エリヤだ』とか『預言者の一人だ』と言うのです。人々の評価を聞いた後にイエスは弟子たちに「それでは、あなたがたはわたしを何者だと思のか」と問います。イエスとともに歩み、イエスの行ってきたことをいつも見てきた弟子たちに問いかけるわけです。弟子たち自身の判断を迫るわけです。真っ先にペトロは答えます。「あなたは、メシアです。」わたしたち自身はどう答えるでしょうか。

今日の福音はそれでは終わりません。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、…殺され、三日の後に復活することになっている。」最初に述べた受難の告知がイエスの口から発せられます。救い主ではあるけれども、この世で王となって民衆の救いを実現するという者ではないということを示します。苦しい時の神頼みで自分を救ってほしいというそういう救いではないのです。苦しいときに優しい言葉で救いの言葉が語られて安心するという救いをイエスはもたらずわけではないのです。あるいは、今の苦しい状況を単に解消してくれるわけでもないのです。

イエスがもたらずのは、人それぞれの十字架をそれぞれが背負ってイエスとともに歩むことです。それがこの受難告知に示されています。イエスはすべての人の罪のあがないのために十字架につけられます。それを弟子であるわたしたちも自分自身の十字架を背負って歩むよう求められているのです。単にイエスの救いの言葉や行いを自分の都合のいいように解釈して安心するのではなく、それぞれに与えられた十字架を生きていくことが求められているのです。その歩みの中でイエスの救いが実現していくわけです。それを勘違いしたペトロはイエスにいさめられることとなります。

「サタン、引き下がれ。」

これはとても厳しい言葉です。

「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

第二朗読でヤコブが言っています。「自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょう。」この行いこそ自分の十字架を背負って歩むことです。決して自己満足のために行うことではなく、それぞれが置かれた場でイエスの行いを実践していくことなのです。今日の福音の最後のことばはそのまま受けとめることばです。イエスを信じる者すべてが心に留めておくべきことばです。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」このイエスのことばを心に留めて歩んで行きましょう。